

第1回 熊本大学—大阪大学技術交流会

—共通機器の有効利用、他機関との連携を目指して—

○志田賢二¹⁾、坂本武司¹⁾、津志田雅之¹⁾、山室賢輝¹⁾、上村実也²⁾

生産構造技術系¹⁾、応用分析技術系²⁾

1 はじめに

機器・分析技術研究会にて機器分析・化学 WG と交流が芽生えた大阪大学科学教育機器リノベーションセンター 技術職員 2 名が来学され、学内の共通装置の管理運営、依頼分析を通じた研究教育支援、他機関連携といった双方に共通する業務をテーマに技術交流会を開催した。

2 内容

技術交流会は参加者 15 名。本学より 3 件、阪大より 2 件の発表で下記のスケジュールで開催された。

3月18日(月)

14:00~14:10	開会挨拶	上村実也 (熊大・企画調整 WG)
14:10~14:30	機器分析・化学 WG の業務紹介	山室 賢輝 (熊大・機器分析・化学 WG)
14:30~14:50	大阪大学の設備サポート事業について ～技術職員の視点より～	斉藤 誠 (阪大 科学リノ・共同利用設備室)
14:50~15:10	XPS による SiC 精密研磨メカニズムの解明	坂本 武司 (熊大 装置製作 WG)
15:10~15:30	ICP-AES による携帯電話スクラップの元素分析依頼	藤崎 充 (阪大 科学リノ・リユース促進室)
15:30~15:50	ワイヤーブラッシングを施した金属材料の組織観察	津志田 雅之 (熊大・機器分析・化学 WG)
19:00~	懇親会	

斉藤氏からは「革新的研究教育基盤機器開発整備事業」を基礎とした設備サポート事業について、技術職員の視点からの発表をしていただいた。当該事業は制御用 PC やソフトウェアの老朽化、修理代が捻出できないために眠っている装置について PC の更新、修理代金を大学が負担、その後装置は学内外に開放するといったものである。日々、学部、学科、研究室といった具合に購入・管理者が異なる種々の設備の保守管理に関わる身としては装置の有効利用の観点から非常に参考になった。

藤崎氏からは ICP-AES による携帯電話スクラップの元素分析について発表をしていただいた。大手金属メーカーの最前線で分析業務に従事されていた際の経験により導かれた「何でも溶かします」といった試料調整のノウハウをご披露いただいた。

本学からは坂本、津志田の2名がメインで実施している研究について発表があった。日々高度化する研究を支援するために、自らが考え手を動かし研究を遂行していること。研究の中から新たな分析方法や解析手法を導き出すことの興味深さや、その経験が学生の教育支援に密接に関わっている等の報告がなされた。各々の発表に対しては活発な質疑応答が繰広げられ、定刻を1時間以上超過するほどの熱のこもった技術交流会となった。

その後、会場を市街地に移して開催された懇親会では技術的、個人的な親交を深め終始にぎやかな雰囲気の中で散会となった。



図1. 技術交流会風景

3 まとめ

今回、研究会を通じて交流が始まった大阪大学と非常に有意義な技術交流会を開催することができた。技術職員が担う研究・教育支援は大学によって様々なアプローチから実施しているということを認識することができた。この交流会をきっかけとして機器の相互利用、職員の技術研修などさらなる親交が深まることを期待している。第2回 熊本大学—大阪大学技術交流会が開催できることを切に願う。

最後になりましたが、本技術交流会にご参加いただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。